

公表

事業所における自己評価総括表（児発・放デイ 多機能型）

○事業所名	逗子市こども発達支援センター くろーばー		
○保護者評価実施期間	令和7年年10月2日		～ 令和7年年11月2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	90名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	令和7年1月14日		～ 令和7年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 16名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	アセスメントに基づき個別支援計画を策定し、それに沿った支援を行い、保護者から一定の評価をいただいている。	児発管と担当クラス職員で会議を行い計画を策定していることと合わせて、各活動の前後に打ち合わせと振り返りを実施し、各利用者の個別支援計画の記載された目標と照らし合わせながら職員間で共有していること。	現在取り組んでいることについては継続してより深めていくことと合わせて、振り返り等で職員間で共有した事項について、日々の生活に照らし合わせやすく分かりやすく説明できるように研鑽を積んでいく。
2	利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段を確保し、利用者の自己決定を尊重した取組を行っている。	日々のアセスメントに基づき、職員との1対1の場面でのやりとりの中で意思の確認を行うことと合わせて、視覚的に捉えやすい選択肢の提示や、意思表示のカード等を用いて、言語発信の少ない利用者についても機会を設けた。	言語発信が少ない利用者への支援と合わせて、発信が多く聞かれる方についてもその内容を理解し、より正確に伝えることができるように支援を進める。
3	日々の利用者の健康状態について把握し、安心・安全への配慮と快適性が確保された生活環境を整えている。	医療的ケアやリスクが高い利用者のみならず、全利用者に対して看護師を中心に各クラスで健康状態の確認を徹底し、把握に努めている。	医療的なケアやリスクが高い利用者について、最新の情報や状況を保護者から聞き取り全職員が把握する。それと合わせて緊急時の対応等について全職員で研修を行い、全職員が同様の対応ができるように準備をする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	提供している福祉サービスの標準的な実施方法の見直しをする仕組みが分かりにくい。	具体的な標準が書面等で明示されていないため、見直しのための仕組みが分かりにくくなってしまったと思われる。	現在、一つのやり方に固執せずに利用者の状況等に合わせ、臨機応変に適切な支援を提供している。職員間の活動の振り返りに時間をかけ、実施方法についてもその都度見直しながら取り組んでいるが、ケースカンファレンス等を全職員で行い、支援方針等を全職員で共通認識としたうえで、より良い支援を目指して改善を進めていく。
2	利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や、地域生活のための支援が行えていない。	地域への移行や生活場面での支援等について、それを目標とする利用者が多くなかった。	地域への移行や生活のための支援を関係機関での過ごしも含まれると捉え、各園や学校等と連携しそれぞれの場面で過ごしやすい時間を持てるように取り組んでいく。
3	事業所経営について環境や状況を把握・分析し、課題を明確にして具体的な取り組みを行うことができていない。	各期末ごとに会計上の報告のみのため、結果を踏まえた展望や取り組みについて分かりにくい点があった。	職員と共有すべき情報を精査し、報告のみではなく今後の展望や注意点等を共有したうえで、職員からも意見を募り半期の経営に活かしていく。